

ふかい憂いのわかる人間になろう 重いかなしみの見える眼を持つと 君看よ双眼のいろ 語らざれば憂い無きに似たり 語らざれば憂い無きに似たり みつを

この詩を見てとても気に入りました。故相田みつを先生の息子さんである館長、相田一人にお願いをして、小さくして家にも掛けられる大きさに作り直してもらって、時々眺めているうちにいつとはなしに頭の中に入ってしまった。この詩のようにできるだけ黙って堪えていく、今でも難しい事、堪えたいことがあるんですけども、それを人に言わないでじっと堪えていく。こういう生き方がとても大切だと思います。私は学歴もありません。社会に出ても追い回されて仕事をしてきましたから勉強するなんて時間はない。しかし、本はたくさん読みました。この本につきまして、先生方にはこういうことを教えていただきたい。最近本を読まなくなると言われますが、本を読む人でも、ただ自分の好きなジャンル、あるいは自分の好きな作家ばかり読んで読書好きという人がいっぱいいますね。読書好き、それは読まないよりいいですが、私はそれで終わってはいけないと思いますね。読書好きというのは面白いけどためにならない本を読むんです。一方私が是非、先生方の手を通して生徒さんに勧めてもらいたいのが「読書力」をつけるということです。読書力とは何か。面白くはないけどためになる本をわかるまで、わからなかったらわかるまで繰り返し、繰り返し読む。

便教会新聞

第170号

令和4年4月

便教会は、教師の教師のためのトイレ掃除に学ぶ会です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高めます。

便教会新聞発行責任者 高野修滋
〒四四五一〇八〇二
愛知県西尾市米津町天竺桂二七
〒〇五六三一五六一四三二七
T/F
携帯 090 - 4215 - 1727

『第22回便教会総会に参加して』

東海 学園 大学
養護教諭専攻 森 柚香

「トイレ掃除をやりませんか」と耳にして、「楽しみだ！是非参加したい！」と即答できる人はいったい何人いるのであろうか。かくいう私も、ゼミ担の先生から便教会についてのお話を聞いた際には「楽しみだ！是非参加したい！」とは到底思うことができなかった。しかし、同じゼミの友人たちのほぼ全員の「参加します！」という声を聞き、それならば「参加するしかない」と重い腰を上げて参加を決意したのである。

普段から自分が暮らす家でさえ、あまりトイレ掃除をしない私にとって、今回初参加となる便教会は決して楽しみと思えるものではなかった。とは言え全く嫌だったというわけでもなかった。というのは、今回の便教会の会場となっていた犬山高校が、小学生の頃からお慕いしているガールズロックバンドのボーカルの方が卒業された高校だったのだ。小学生の頃から一度は犬山高校へ行ってみたいと思いつつも、愛知県民ではないため、なかなか機会に恵まれずだった。だからこそ、今回の便教会に参加すれば、大好きなボーカルの方の母校へ「聖地巡礼できる」という邪な想いを胸に抱えながら、犬

これによって読書力が身についてくると思います。中には面白くてためになる本もありますね。たとえば小川洋子という人が書いた「博士が愛した数式」。面白くて面白くて、あの中に出てくるいくつかの数字を覚えちゃってるんですね。時々中学生、高校生に話すときに使うんですけども、私のようなこんな歳になっても八十五億八千九百八十六万九千五百六十六、三千三百五十五万三千三十六という数字が出てくるんですけども、覚えようと思ったわけではないんですけども、面白いと思って読んでいたら頭に入ってしまうんです。面白いけどためにならない本、できれば面白くないけどためになる本、その間には面白いけどためになる本に巡り合っていく。昨年、私は塩野七生という人の本を読み尽くしました。「ローマ人の物語」の本を全巻買って、最初は苦労しました。ギリシャ名、ラテン名はわかりにくい。日本人に馴染みにくい名前です。ですから覚えにくかったんですけど、最初繰り返し、繰り返し読んでいくうちに途中から何も苦労せず、人名にも苦労しなくなりました、地名にも驚かなくなりましたというふうに変わってまいりました。ですから、私のようなこんな歳になっても可能であるとしたら、高校生であれば大いに可能なことで、読書力を身につけた生徒さんを一人でも多く育てていただきたい。そして、残念ながらもうすでに悪徳の世界に落ちていく生徒さんを一人でも二人でも美徳の世界にすくい上げていっていただく。皆さんにはそのネット(網)の役割をしていただきたいです。

山高校へ足を踏み入れたのだった。

ほどなく担当するトイレの前に集合となったが、驚いたのはその道具である。トイレ掃除の道具といえば便器ブラシくらいしか知らなかったため、床に置かれた道具の種類の多さに思わず目を見張ってしまった。そして、いざトイレ掃除が始まると、周りの方は便器に落ちてしまっているのではないかと思うほど体をかがめて掃除する様子を見て、生半可な気持ちで来る場所ではなかったと後悔することになった。利他の精神に溢れるグループの方々と比べると、邪な想いを胸に抱えながら参加している私は、なんと浅はかであったのかという強い呵責に苛まれた。しかし、やるからには精いっぱいやろうと心を入れ替え、割り当てられた和式便器に集中した。純粹な気持ちで始めたトイレ掃除ではなかったものの、進めていくうちに、どんどのめり込んでいくのが自分でもよく分かった。最初に見たときは、「絶対に落ちるわけがない！」と思ってしまうほどのすごい汚れが、磨いていくうちにだんだんと落ちていくと、まるで得も言われぬ高揚感に包まれていくようであった。

そして、黙々と和式便器を磨いていくうちに、もうこれ以上は磨けないのではないかと、そろそろ終わっても良いかもしれないという思いが頭をかすめはじめた。バケツに入った水が汚れたので綺麗な水と交換するという大義名分を立て

【編集後記】三月上旬、御殿場市で春キャンプをしました。「ドーン」と大きな爆発音、「ダダダダッ」と乾いた音。最初、「何の音？」と驚きましたが、アッ！陸上自衛隊 東富士演習場が近くにあるんだと気づきました。訓練は夜遅くまで続いています。災害時に救援・復旧活動をする自衛隊の姿を私たちはテレビで見ますが、有事に備えて日夜訓練に励んでいることを改めて知ることとなり、日本を護ってくれていることに頭を深く下げました。令和の世になり昭和は遠くなり、戦後77年が経とうとしています。今、ロシアとウクライナの戦いで多くの犠牲者が出ているのを知ると、領土を護る国防について深く考えなければならぬと思います。明治開国以来、日本は日清、日露、第一次世界大戦、日中、大東亜と戦いましたが、何故私たちの父祖は日本を出て戦わなければならなかったのか。そこを読み解くと当時の世界勢力図が見えて、日本には護らなければならぬものがあったことがわかります。第一次世界大戦後のパリ講和条約で日本は「人種差別撤廃」を提案しましたが採択されませんでした。今もその不合理が続いています。私たち日本人ができることは日本国を愛することです。愛国心を養う礎は森信三先生の「時を守り、場を清め、礼を正す」。このことが家庭、職場、社会で当たり前となれば忘れられていたものが復活します。日本人の良さはDNAの中で眠っています。その遺伝子のスイッチをオンにするのは『掃除道』です。 高野修滋 拜

ると、担当する個室から出て、他の人の便器を覗いて見た。偶然にも、隣の個室ではゼミ担の先生が和式便器を磨いておられた。先生が磨いていた和式便器は、私が磨いていた和式便器を遥かに上回りピカピカで、新品と見誤りそうになるくらいとても綺麗であった。先生の磨く和式便器と自分が磨いていた和式便器を見比べて、私はとても恥ずかしくなった。しかしそれは、自分が磨いている和式便器がまだまだ汚れていたからでは決してなかった。ではなぜかという、自分自身で勝手にこれ以上汚れが落ちることはない、もう無理だと限界を決めて、これくらいで良いかと妥協点に落ち着いていることに気づかされたからである。

何かしらやらねばならないことがあるにもかかわらず、やる気の出ないときに、時間や範囲を決めてここまで頑張ろうと目標を立てることは、物事に取り掛かる上で時には有効な方法だと思ふ。しかし、思い返してみると、今回の便器磨きのように何かに取り組んでいる最中に、ふと、「もうここまでやったから良いか」と熱意がなくなり、気持ちが折れてしまうような経験がしばしばあることに気がついた。最初にここまでと目標を決めて物事に取り掛かるのと、物事に取り掛かっている途中で、まあ、ここまでやれば良いかと決めるのでは、同じようでも全く異なる。まさに似て非なるものである。

「掃除道」は人生を豊かにしてくれます。

第23回便教会総会 5月22日(日)

前者は最初に目標を決めてそこに向かって努力をしているとても前向きな考えだ。しかし、後者は物事に取り掛かっている途中で、自分自身で勝手に限界を決め、諦め、妥協しているというとても後ろ向きな考えだ。

ゼミ担の先生が磨いていらっしやっただピカピカの和式便器を見て、私もまだまだやれるはずだと、もう一度気合を入れ直して便器と向かい合うことにした。すると、まだ磨き切れていなかった汚れが浮かび上がってきた。和式便器の縁の裏や、手が届く限りの奥深くの部分まで、気がつくまで夢中になって磨き続けていた。さらに便器だけでなく、金具や壁、床までを全て磨き終えると、掃除を始める前のトイレとは見違えるほど綺麗になっていた。

一人きりでトイレ掃除をしていたら、きっと途中で諦め、妥協点に落ち着いていたことであろう。しかし、今回の便教会では、ゼミ担の先生をはじめとするグループの方々が一生涯懸命にトイレ掃除をされている様子を見て、諦めそうになったときに自分自身を鼓舞することができた。グループの方々とは最後までトイレ掃除をやりきることができたからこそ、最後にはとても清々しい気持ちでトイレ掃除を終えることができた。素敵なグループの方々には恵まれたことをとてもありがたいと思う。

私は現在、東海学園大学の養護教諭専攻に所属している。大学生活も春から四年目を迎え、今年も教員採用試験が待ち構えている。教員採用試験とは、どれだけ勉強したとしても、ここまでやれば合格するという終わりがあるものではないだろう。今回の便教会を通して、物事に取り組んでいる最中に、自分自身で限界を決め、

私が初めて見た道具に対し「これはどうやって使うのか？」と迷っていたり、「どう掃除すれば良いのか？」と考えていると、近くにいる方々がすぐに声をかけてくださった。「こう使うんだよ」、「こうやって掃除すると効率が良いよ」などと声をかけて頂いた。便教会に参加している方々はみんな優しく、初参加の私でも真剣に楽しく掃除をすることが出来た。最後はチームの皆さんと一緒に並んで順番に雑巾を絞ったり、壁を拭く担当と、掃除道具を綺麗にする担当に分かれた。掃除をスムーズに進めるためには、こうしたチームプレーも大切であることを学ぶことが出来た。

15分ほどしかトイレ掃除をしたことの無い私が、約2時間ものトイレ掃除を行うというスケジュールを聞いた際、正直に言うと、心の中では「長すぎるー」という気持ちと、「トイレにそんな長時間も掃除をする部分があるのか!？」という気持ちが入り混じった。しかしそんな気持ちとは裏腹に、実際にトイレ掃除を行ってみると2時間では全く足りなかった。「これも掃除したい」、「これももっと綺麗にしたい」という気持ちが次から次へと湧いてきた。これには自分でも驚いた。15分の掃除でも早く終わらないかなと思っていたのに、正しい掃除方法と丁寧なトイレ掃除を学ぶことで、ここまで考え方も変わるのだと身に染みて感じた。

私がたくさんの学びを得たのはトイレ掃除だけではない。便教会には多くの教員の方が参加されていた。掃除後の報告会ではグループワークの時間を設けてくださり、そこでもたくさんの学びがあった。学校で働く養護教諭をめざす私にとって、今現在学校で働いている教員の方

諦めてしまう傾向があることに気づかされた。しかし、一人では諦めそうになったとしても、周りの方々が頑張っている様子を間近で見ていると、もう一度頑張ろうと思える経験を今回の便教会で得ることができた。この気づきと経験を活かして、教員採用試験においても、途中で諦めてしまうことなく、ときにはゼミや同級の仲間たちと励まし合いながら最後までやり切り、2022年の秋には笑顔で合格を報告できるように、粉骨砕身努力する所存である。

『多くの学びがあった便教会』

東海学園大学
養護教諭専攻 新增理紗

大学生になり、トイレ掃除をする機会が増えた。「トイレ掃除をすると運氣が上がるよ」と、その時のゼミ担であった梶岡先生がおっしゃっていたからだ。普段から使い終わった後にササっとトイレ掃除をしたり、大事な発表の前はいつもより念入りにトイレを掃除したりしていた。そんな中、「便教会」という活動があることを梶岡先生から紹介された。今まで耳にしたことのない活動だったし、学べるものがたくさんあると聞き興味が湧いた。しかし、参加したいと思っていたものの新型コロナウィルスの影響で延期が続き、なかなか参加することが叶わなかった。月日が過ぎ、今回、再び梶岡先生にお声掛けして頂き、遂に参加することが出来た。

興味が湧いていたものの、いざ参加し便器を目の前にすると、「汚くて嫌だな」という気持ちで湧き上がった。しかも私の担当は男子トイレの小便器だ。普段使ったことのない男子トイレの意見を聞けることは大変貴重だった。「普段あまり時間のない学校でのトイレ掃除では、どんなことに気をつけて掃除指導をしているのか」という質問をしたところ、「トイレ全体を綺麗にするのではなく今日はここを綺麗に、次はここを綺麗に、といったように重点的に行う場所をひとつひとつ指定して掃除を行うようにしている。」、「中学生、高校生になると、教師が掃除をしているところを見せないと子どもは動いてくれないため、まずは自分が率先して掃除を行う」などといった回答を頂いた。

自分が率先して掃除をするためには、子どもたちのお手本になるような掃除を行わなければならない。お手本となる教師が間違った方法、手を抜いた方法で掃除をしては子どもたちの手本にはなれない。良いお手本になるような掃除方法を今回の便教会でたくさん学ばせて頂いた。次は私が養護教諭となり、今回学んだことを子どもたちに教える番である。掃除の大切さだけでなく、物を大切に扱うことも教えていきたい。また、あまり力を入れなくても雑巾をしつかりと絞れる方法も教えて頂いた。力がなく、雑巾を絞るのにも苦勞していた小学生の頃の自分に教えてあげたかった。便教会で学んだことだけでなく、感じたこと、想ったことも子どもたちに伝えていきたい。

今回、便教会に参加して大きな気持ちの変化があった。今までは先に述べたように、自分の運氣が上がるように、自分に得があるようにトイレ掃除を行ってきたが、それだけではなく、トイレを使う人が気持ちよくスッキリした気持ちで使っていて欲しい、トイレをいつも綺麗な場所にしておきたいという気持ちが強くなった。自

レの掃除を行うことには抵抗があった。だが、周りの方々はすぐに掃除に取り掛かり、便器を磨き始めていたため躊躇している暇もなく、私も遅れまいと掃除を始めた。

これを読まれている方は、尿石というものを存じだろうか。私は今回便教会に参加するまでそれが何か知らなかったし、わからなかった。そもそも尿石という言葉聞いたことも無かった。尿石というのは、尿に含まれる成分が便器内で固まったものである。初めてまじまじと尿石を見た時、掃除をするのをためらうほど嫌な気持ちで湧き出てきた。しかし、尿石を歯ブラシでこすって取る方法を教えて頂き、取り始めると不思議なことに、こすればこするほど取れいき、スッキリした気持ちになった。そうこうしているうちに、だんだん「嫌だ」という気持ちは薄れていき、「何とか綺麗になってほしい!」という強い気持ちで便器を磨いていた。綺麗になってほしいという気持ちが大きくなればなるほど、私は便器を力強くゴシゴシと磨いていた。ゴシゴシ磨いた方が汚れは早くたくさん取れると思ったからだ。しかしそんな時、チームの方から「掃除道具もひとつひとつ大切に使わないといけない」と教えて頂いた。ゴシゴシ力を入れて磨きすぎているのに対し、教えてくださったその方の歯ブラシの毛先は倒れずにまっすぐのまま、そして私よりもその方の便器は早く綺麗になっていた。私のやり方では歯ブラシがすぐに悪くなってしまおうし、すぐに使えなくなってしまう。使う道具ひとつにしても、適切な使い方があり、ひとつひとつの掃除道具を大切に扱うことの大切さを学んだ。

分のトイレ掃除のスキルアップだけでなく、人としても大きく成長できたと感じる。便教会に参加できてとても良かった。また機会があれば、ぜひ参加したいと思っている。

『憂い』

日本を美しくする会
相談役 鍵山秀三郎

「憂い」この詩は有楽町駅前の東京フォーラムという東京都の施設があって、その地下一階に「相田みつを美術館」があります。この詩はそこに常設してあります。むかしの人の詩にありました。ここから良寛さんがよく使った言葉が出てきます。良寛さんの言葉ではありませんが、良寛さんが好んで使ったという言葉が出てきます。君看よ双眼のいろ 語らざれば憂い無きに似たり どうぞ皆さん私の双眼の色、私の二つの眼を見てください。私が何も言わなければ、何も憂いがないように見えるでしょう。ここから相田先生の言葉が始まります。憂いがないのではありません 悲しみが無いのもありません 語らないだけなんです 語れないほど重い悲しみだからです 人にいから説明したって 全くわかってもらえないから 語ることをやめて じっと ころえられているんです 文字にもことばにも 到底表わせない ふかい憂いを おもいかなしみを こころの底ふかく ずっしりしずめて じっと黙っているから まなこが澄んでくるのです 澄んだ眼の底にある

「掃除道」は人生を豊かにしてくれます。